

まく ほう くも膜のう胞

頭蓋骨と脳の間には、髄膜(ずいまく)という脳の表面を覆っている膜があります。

髄膜は、外側から硬膜、くも膜、軟膜という3層構造になっており、くも膜のう胞とはこの“くも膜”が一部袋状に変化したもののことです。

くも膜のう胞の内部には、脳脊髄液と同じ成分の無色透明の液体が含まれています。



くも膜のう胞には、先天性と後天性のものがあります。

- ◆ 先天性くも膜のう胞 → 生まれつきのもの。ほとんどの場合が先天性。
- ◆ 後天性くも膜のう胞 → 外傷や脳出血などに伴うもの。

ほとんどの場合自覚症状を伴わず、脳ドックなどの健康診断で頭部 MRI・CT 検査を受けた際、偶然に発見されることもあります。のう胞の大きさや脳の圧迫具合によっては頭痛や視力障害を認める場合もあるため、症状を認めた場合にはお近くの脳神経外科を受診して下さい。

《 主な自覚症状 》 ※のう胞の大きさや圧迫部位によって症状は異なります。

- ・ 頭痛
 - ・ 吐き気、嘔吐
 - ・ けいれん発作
 - ・ 視力障害
- など

症状がない場合、または症状が軽度な場合にはかかりつけ医や脳ドックなどの健康診断で経過観察を行います(受診の頻度は医師の判断になります)。脳出血を伴ったり、くも膜のう胞により脳が圧迫されるなどして症状が認められる場合には、手術が必要となることもあります。

基本的には日常生活やスポーツ面での制限はとくにありませんが、頭部打撲などが予想されるスポーツ(サッカーのヘディング、ラグビー、ボクシングなど)は禁忌になります。

少しでも気になる症状があれば、お近くの脳神経外科へご相談下さい！